

## 第12回アジア・オセアニア国際老年学会議

2023年6月12日から14日の3日間の日程で、第12回アジア・オセアニア国際老年学会議（IAGG Asia-Oceania Regional Congress 2023）が、横浜市の横浜国際平和会議場（パシフィコ横浜）ノースを会場として開催された。本会議は、国際老年学協会（International Association of Gerontology and Geriatrics, IAGG）を構成する5つの地域会議の一つであるアジア・オセアニア地域での国際会議であり、1980年にメルボルン（オーストラリア）で第1回会議が開催されて以降、ほぼ4年ごとに開催されている。2019年10月に台北で開催された第11回会議の後、COVID-19の世界的な感染拡大および収束を経て開催された今回の会議では、*Enhanced Wellbeing in Later Life through Innovation and Wisdom Sharing* というテーマのもと、3日間で1,500名以上が参加した（事務局発表による）。

当研究所からは、林玲子（副所長）、小島克久（情報調査分析部長）、蓋若琰（社会保障応用分析研究部室長）、中川雅貴（国際関係部室長）が参加し、それぞれ以下の研究発表を行った。

### 【口頭発表】（シンポジウム）

- HAYASHI, Reiko "Introduction", *Healthy and Active Ageing Index in ASEAN Countries* (Social Science 10).
- NAKAGAWA, Masataka and HAYASHI, Reiko "The Healthy and Active Ageing Index (HAAI): Results for Southeast Asian Countries", *Healthy and Active Ageing Index in ASEAN Countries* (Social Science 10).

### 【ポスターセッション】

- HAYASHI, Reiko "Senility Deaths in Japan - a multiple cause of death analysis using deaths certificate information" (IMAGAWA, Teruhiko ほか4名との共同発表).
- KOJIMA, Katsuhisa "Factor Analysis of Foreign-born LTC Workers Change in Taiwan during Covid-19 Pandemic - analysis with public open data by region".
- GAI, Ruoyan "Measurements Relevant to Social Isolation Deployed in Public Surveys in Japan" (NISHIYAMA, Yukimitsu ほか4名との共同発表).

（中川雅貴 記）

## 日本老年社会科学会第65回大会

日本老年社会科学会第65回大会が、2023年6月17日から18日にかけてパシフィコ横浜ノース（神奈川県横浜市）で開催された。昨年度に引き続き対面で開催された。大会のテーマは、「社会とのつながり～孤立・孤独と老年社会科学～」であった。本年は日本老年学会に加盟する他の学会（日本老年医学会、日本基礎老化学会、日本老年精神医学会、日本老年歯科医学会、日本老年看護学会、日本ケアマネジメント学会）との合同大会（第33回日本老年学会総会）であった。期間中は、これらの学会からの参加者とともに、シンポジウム、特別講演、一般報告等で活発な議論が行われた。今回の大会では、一般報告はポスター発表のみで73の演題で行われた。当研究所からは、小島克久（情報調査分析部長）が以下の演題でポスター発表を行った。

小島克久

「新型コロナ禍の台湾における外国人介護労働者の動向：公表データを用いた分析」(優秀ポスター賞授与)

(小島克久 記)

## 第20回世界社会学会議

国際社会学会 (ISA) が4年に1回開催する世界社会学会議 (ISA World Congress of Sociology) の第20回大会は、2023年6月25日 (日) ~ 7月1日 (土) にかけて、オーストラリア・メルボルンにて開催された。同学会は社会学における最大規模の国際学会であり、4,500名程度の会員が所属している。ISA が主催する大会のなかでも、4年に一度開催される世界社会学会議は、各国の社会学者が一堂に会する学会大会である。

社会学が扱う分野は多岐にわたるため、ISA にはテーマごとに Research Committee (RC) が設けられている。学会大会のセッションも、基本的には RC を単位として開催され、家族、教育、歴史、社会階層、都市、理論など社会学の各トピックについて最新の研究成果が報告された。

国立社会保障・人口問題研究所からは吉田が参加し、以下の報告を行った。  
Yoshida, Wataru, "Trickle-Down Effect or Vice Versa? Examining the Effect of Female Managers in Japanese Firms, 2008-2016,"

それぞれのセッションでは、発表後にディスカッションの時間が設けられており、しばしばフロアと発表者の間で活発な議論が展開されていた。著者個人としても、同じセッションで報告していたオーストラリア国立大学の研究グループとセッション後に意見交換し、研究を進めるうえで重要な示唆を得られた。

今回の第21回大会は2027年に韓国・光州で開催予定である。(吉田 航 記)

## 韓国文化日報「文化将来報告」国際セミナー

韓国ソウルの大韓商工会議所国際会議場にて、2023年6月29日 (木) 14:00~18:20に、「文化将来報告 Munhwa Future Report」と題する国際セミナーが開催された。このセミナーは、韓国の日刊新聞社である文化日報社が主催する、グローバルかつ歴史的な課題について世界各国の専門家を招聘し開催しているもので、第6回に当たる今年の会議は、テーマを「人口-21世紀における国家興亡の鍵」とし、過去最低、世界でも最低水準である0.78という合計特殊出生率を記録した韓国が今後どのように成長し、年金、福祉、労働、教育、防衛といった各分野を切り盛りしていくのかビジョンを開くことを目的としたものである。

開会セッションでは、イ・ブンキュ (李丙圭) 文化日報会長の挨拶に始まり、ユン・ソンニョル (尹錫悦) 大統領のビデオメッセージの後、キム・ジンピョ (金振杓) 国会議長、ハン・ドクス (韓惠洙) 首相がそれぞれ会場で挨拶し、その後多くの政治家や企業関係者が紹介される形式で、韓国のメディアの在り方がよくわかるものであった。

第一部は国際的な人口動向について、ウォルフガング・ルッツ ウィーン大学教授が人口動向と教